

な環境のせいかな、今回「難民」の方の歯科治療をして欲しいと仲介に立った方に言われたときも「はあ〜」という程度の認識でした。

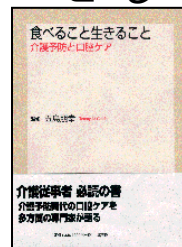
この方の歯科治療は約2ヶ月に及びました。健康保険などもないので無償でしたが、最初の緊張感ある顔から、徐々に表情が穏やかになり、笑顔も見せていただけのようになりました。お口の中もどんどん良くなっていき、歯槽膿漏で柔らかい麺類をすすっていたのが、最後は入れ歯を入れ、硬いものをしっかり噛めるようになりました。僕たちにとっても、お口が健康になることで生活が変わるんだということを再認識させてもらいました。

この方は、日本での受け入れがかなわず、第三国に旅立たれましたが、お別れのときには満面の笑みを浮かべていただきました。

本当に小さな小さな国際貢献でしたが、いろいろな経験をさせていただきました。

本の話

このたび、僕が監修した「食べること生きること」と介護予防と口腔ケア」という本が出来ました。



した(北隆館、1900円+税)！監修や企画で単行本を作るのは2回目ですが、前回よりも深く関わっている分、思い入れもあります。

全部で4章立てで、第1章「口から食べること」、第2章「摂食・嚥下障害と食」、第3章「口腔ケアの役割」、第4章「地域のネットワークと実践」というタイトルをつけました。著者も医師、看護師、歯科医師、歯科衛生士、施設

の職員、栄養士、それにケアマネなど、多職種の方たちにお願いしました。もちろん僕も何本か書いていますよ！

自信を持ってご紹介できる本です。専門職でなくても分かりやすく読める本ですから、ご興味があればぜひ読んでみてください。もちろん、僕たちに声をかけていただければ結構です。よろしく願いいたします。

〈チラシより〉

誰もが老い、誰もが食べられなくなるリスクを持っています。この本を読んでいたただいた皆さんが、明日、食べられなくなるとは言いません。しかし、明日、そのような障害は生じないと断言できる人もいません。自分自身の問題として、自分たちが生きていく社会の問題として大いに関心を持つようじゃありませんか。(五島朋幸)